

## 第 3 回日本社会関係学会賞の選考結果について

2025 年 3 月  
日本社会関係学会

日本社会関係学会では、このたび第 3 回日本社会関係学会賞として、2023 年および 2024 年に刊行（または学位授与）された出版物と博士学位論文を対象に公募を行ったところ、7 点（博士学位論文 1 点を含む）の応募があった。日本社会関係学会賞選考委員会は、厳正な審査により、以下の通り最優秀賞 1 点、優秀賞 1 点、特別賞 2 点を決定した。

### 第 3 回日本社会関係学会賞受賞作品

#### 最優秀賞 1 点

横山智哉著『「政治の話」とデモクラシー—規範的効果の実証分析—』有斐閣（2023 年 3 月刊行）

#### 優秀賞 1 点

平井寛・竹田徳則・近藤克則著『まちづくりによる介護予防—「武豊プロジェクト」の戦略から効果評価まで—』ミネルヴァ書房（2024 年 4 月刊行）

#### 奨励賞 2 点

閻垂光著『日本型ダイバーシティマネジメント—日本企業が歩む性的マイノリティとの共創の道—』晃洋書房（2024 年 11 月刊行）

Rashed Nedal Al Jayousi（ラashed・ネダル・アル・ジャユースィ）著 *Beyond NGOization in Conflict: From Institutionalization to Informalization in Palestinian Civil Society*（紛争における「NGOization」の先へ：パレスチナ市民社会における制度化から非公式化へ）東北大学博士学位論文（2024 年 9 月学位授与）

### 日本社会関係学会賞選考委員会

委員長：佐藤嘉倫（京都先端科学大学）・委員：尾島俊之（浜松医科大学）・小野晶子（独立行政法人労働政策研究・研修機構）・樽見弘紀（北海学園大学）・露口健司（愛媛大学）・西出優子（東北大学）・松本渉（関西大学）・要藤正任（京都産業大学）

### 第3回日本社会関係学会賞・講評

日本社会関係学会賞選考委員会

委員長 佐藤 嘉倫

第3回日本社会関係学会賞各賞を受賞された皆様、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

今回の応募作はいずれも優れた作品だったので、長時間にわたって慎重に審議を重ねた結果、最優秀賞1点、優秀賞1点、奨励賞2点が選ばれた。

**最優秀賞の横山智哉著『「政治の話」とデモクラシー—規範的效果の実証分析—』**は、日常生活における人々の「政治の話」を対象として、それが民主政を円滑に機能させることに寄与しているのかを、さまざまな実証データを詳細に分析することにより解明した。テーマの設定、リサーチクエスションに対するアプローチ、集団討議参加者に対する討議後の追跡調査を含めたデータ収集および解析等、オリジナリティに富んだ研究である。ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエル・ハマス紛争、シリアにおけるアサド政権の崩壊など、国際的な政治的混乱が続いている中で、「政治の話」がどのような影響を持つのかを実証的に検証しようとする本書のアプローチは重要な示唆を与えてくれるものであり、今後さまざまな実証研究が積み重ねられていくことが期待される。

**優秀賞の平井寛・竹田徳則・近藤克則著『まちづくりによる介護予防—「武豊プロジェクト」の戦略から効果評価まで—』**は、20年以上にわたって実施されてきた介入プログラム（愛知県武豊町介護予防モデル事業）に基づいたものである。武豊町の概要からプロジェクトの中心である「憩いのサロン」設立の過程、「憩いのサロン」の具体的な運営や活動内容までが丁寧に解説されていて、進行する高齢化に対処している他地域の自治体や住民にとっても有用な情報を提供している。またプロジェクト開始前と開始後のアンケート調査をもとにして、ソーシャル・キャピタルや健康指標において、サロン参加者と非参加者との間で有意な差がみられたことなど学術的に興味深い結果も数多く紹介されていて、学術的にも有意義な書籍となっている。

**奨励賞の閻垂光著『日本型ダイバーシティマネジメント—日本企業が歩む性的マイノリティとの共創の道—』**は、性的マイノリティ当事者に対して、日本企業で実際に行われている取組み、ダイバーシティマネジメントについて調査分析し、その限界や展望について経営学の視点から論じている。独自のアンケート調査やインタビュー調査に基づいて、ダブルマイノリティ（外国人×性的マイノリティ）の当事者が抱える課題、職場における当事者のメンタルヘルス、企業と当事者の認識のずれなどを実証的に可視化することに成功している。日本の学術分野において性的マイノリティを主題にしてダイバーシティマネジメントが論じられたものはほぼ無く先鞭をつけた研究であるといつてよく、将来的な発展性が期待できる。

同じく奨励賞の Rashed Nedal Al Jayousi (ラシエド・ネダル・アル・ジャユーシ) 著 *Beyond NGOization in Conflict: From Institutionalization to Informalization in Palestinian Civil Society* (紛争における「NGOization」の先へ: パレスチナ市民社会における制度化から非公式化へ) は、パレスチナ市民社会団体 (CSO) の NGO 化について取り上げ、その状況からどのように脱するかについて組織の非公式化 (informalization) を鍵概念にあげて論じている。パレスチナ地区のみならず紛争地域や発展途上国には、多くのドナーから国際援助が届くが、現地の CSO が NGO 化 (制度化、専門化、官僚化) してしまう。本博士学位論文は、独自のヒアリング調査やアンケート調査に基づいて、NGO 化で形式化、硬直化した組織の柔軟性、適応性、効率性を高めるために、そして組織の回復力 (レジリエンス) や組織内のボトムアップアプローチ、草の根コミュニティとのより深いつながりを育む手段としても、インフォーマル化が必要であると主張する。荒削りの箇所も見られるが、今後に期待できる秀作である。